

ひとりでも みんなでも もっと学べる！

ライブドリル教材！

table+ drill Live!

実践事例

石川県羽咋市立栗ノ保小学校

児童・生徒数 全校62名

導入学年 全学年

導入教科 **国語** **社会** **算数**
理科 **英語**

活用場面 授業・朝学習・帯タイム・宿題

使用端末 iPad、Chromebook

端末の持ち帰り 毎日持ち帰っている

まっただけんこ
松田健吾先生(6年生)、
やまぎしてつがく
山岸哲学先生(3年生)に

ライブドリル教材の活用状況について
お答えいただきました！



ライブドリル教材を導入してみて、活用状況はいかがでしょう？

山岸先生 3年生は市内でもトップクラスの活用率を誇り、朝自習が始まる前から児童が自発的にログインして取り組むほどです。休み時間にも進んで行う児童がいるなど、強制されることなく楽しみながら日常的に活用が進んでいます。

松田先生 6年生では朝学習や毎日の宿題として「ライブドリル教材」が定着しており、教員が細かく指示しなくても、児童が自ら必要な単元を選んで取り組むスタイルが確立されています。上の学年の内容も学習できるので、中学校レベルの問題を活用して、英検5級・4級の取得をした児童もいるなど、授業以外の学習にも役立っています。



山岸先生 松田先生

紙のドリルと比べてライブドリル教材のメリットはどんなところですか？

松田先生 デジタル教科書の紙面にあるボタンを押すだけで、その単元に合った「ライブドリル教材」の問題へ即座にアクセスできるため、学習箇所を探す手間もありませんし、授業の流れを止めずスムーズに移行できる点が、大変助かっています。

山岸先生 間違った問題だけピンポイントに解き直しできる機能が役に立っています。正解だった問題はグレーになっており、解答内容も見られるようになっています。間違った問題に集中して取り組めるので、みんな間違いを放置せず解き直しを行うサイクルが自然と生まれたのではないのでしょうか。



松田先生 山岸先生

ライブドリル教材managerで先生がよく活用している機能を教えてください。

山岸先生 学習状況がリアルタイムで一覧表示される機能を重宝しています。「この問題で多くの児童がつまづいている」と瞬時に把握できるので、その場ですぐに全体へ補足説明をするなど、授業中の指導へ反映できるのが大きな利点です。

松田先生 紙のドリルでは全員一律の問題になりがちですが、「ライブドリル教材」なら簡単に学年を横断できるので、一人ひとりに最適な課題を配信できます。特別な教材を個別に用意・印刷しなくても、端末一つで全員分の個別学習をカバーできるので、準備の負担が大幅に減り、教員の働き方改革にも繋がっています。



活用の流れ



1 授業内容の確認(10分)

教科書とデジタル教科書を使って、本日の学習を進めます。デジタル教科書に収録されているコンテンツを動かしてみたり、問題を解いたりしました。



2 ライブドリル教材を使って学習内容を復習(10分)

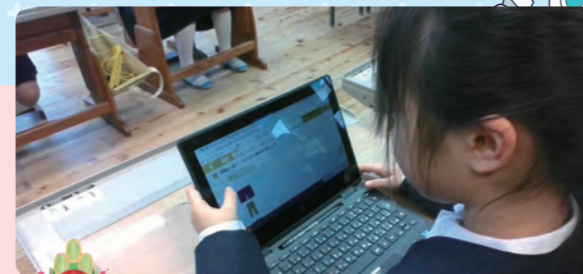
学習範囲が終わったところで、先生はmanagerを使って本日の復習問題を配信し、児童は取り組んでいきます。



3 リアルタイムに結果を確認し、解説を実施(5分)

児童からの提出状況をリアルタイムに確認していきます。よく間違っている問題は再度一斉授業で解説します。

ライブドリル教材を使っている子どもたちの声



マイタペット

みんなのライブドリル教材のコーナーが面白くて、授業中にやると特に勉強がはかどります。タッチペンが県と全国で競いあえるのが嬉しいです。

短時間で大事なことをたくさん学べるので、時間が少ししかないときも、予習・復習ができます。また、英検準2級プラスの勉強をしていますが、単語を覚えるために、中学校のドリルをやっています。



マイタペット



今後に向けて取り組みたいことはありますか？

山岸先生 学校では友達と一緒に盛り上がりがりながら学習していますが、長期休暇中や家庭学習といった一人になる環境でも、同じように児童が自律的に学習を継続できるような手立てを考えていきたいですね。場所が変わっても、変わらず意欲的に学べる習慣を維持・強化していきたいです。

松田先生 6年生は小学校生活の総仕上げの時期です。「ライブドリル教材」の「全学年の学習ができる」というメリットを最大限に活かし、1年生からの学習内容を縦断的に復習させたいと考えています。特に漢字や社会など、中学校進学前にしっかりと基礎を定着させ、自信を持って送り出してあげたいですね。



ライブドリル教材活用のすすめ

「ライブドリル教材」に収録されている中学校1・2年生レベルの問題やWordsチェックの単元を活用し、英検5級・4級の合格を目指して自己調整を行い、学習しているという、教科書や授業以外での活用に驚きました。子どもたちの「もっと学びたい」という意欲と子どもたちの主体性を信じ、温かく見守る両先生の指導スタイルこそが、ICTが日常に溶け込み、強力で後押ししている秘訣なのだと実感しました。

